

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																												
河原デザイン・アート専門学校		平成13年4月3日		白石 隆保		〒 790-0002 (住所) 愛媛県松山市二番町一丁目12-2 (電話) 089-931-9111																																												
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																												
学校法人河原学園		昭和60年10月21日		河原 成紀		〒 790-0001 (住所) 愛媛県松山市一番町一丁目1番地1 (電話) 089-934-5333																																												
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																											
文化・教養	文化・教養関係専門課程	漫画クリエイター科				平成22年文部科学省認定	-																																											
学科の目的	職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものとする																																																	
認定年月日	平成26年3月31日																																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																											
	2年							昼間	108	20	88	0	0	0																																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																								
60人		79人		0人		3人		5人		8人																																								
学期制度	■前期:4月8日～9月13日 ■後期:10月1日～2月14日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																											
長期休み	■学年始:4月9日 ■夏季:7月22日～8月18日 ■冬季:12月25日～1月9日 ■学年末:2月22日～4月7日				卒業・進級条件		卒業要件:																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 本人及び保護者との面談				課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 NPOまんがで繋がる愛媛 ～ひめコミ～ <input type="checkbox"/> ■サークル活動: 無																																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) プロ漫画家アシスタント、店舗デザイナーとして就職				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
	■就職指導内容 就職キャリアセンターの就職スタッフによる、ヒアリングや提案を実施。担任教員と情報交換しながら、学生一人ひとりの志望と業界をマッチングさせている。また担任が履歴書の添削、						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文章能力検定3級</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文章能力検定3級	③	37人	22人																																
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																														
	文章能力検定3級	③	37人	22人																																														
■卒業者数 33人 ■就職希望者数 33人 ■就職者数 28人 ■就職率 5% ■卒業者に占める就職者の割合 : 84.8%				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																														
■その他 ・進学者数: 0人				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0																																														
中途退学の現状		■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者67名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更		■中退率 2%																																														
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ■授業料減免制度 ★入試特典:AO入試(初年度学費4万円減免)、指定校推薦入試(初年度学費7万円減免)、推薦入試(初年度学費3万円または2万円減免)、自己推薦特典(初年度学費1万円減免)、大学・短大・社会人特典(入学金4万円減免) ★高校生支援制度:河原学園特待生制度(SSS級学費70万円減免、SS級学費40万円減免、S級学費20万円減免、A級学費10万円減免) 河原学園特別学生寮制度:寮費月額2万5千円 一人暮らし支援制度:月額5千円支給 ★大学・短大・社会人支援制度:再入学制度(入学金全額免除) ★全員対象の支援制度:家族制度(学費5万円減免)				■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の職業教育のモデルは、業界の実務動向、社会の変化がその基盤になければならない。したがって教育課程の編成においては、業界及び社会の変化やニーズ、在校生及び卒業生の仕上がり状況等の不断の組織的、継続的検証を行う必要がある。企業等から広く、具体的に意見を求め、高度で実践的な教育課程を編成するために、新たな授業科目の開設における連携はもちろんのこと、現存のシラバスやコマシラバスにまで落とし込める授業内容・方法の改善並びに教材開発につながる連携を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教務系会議の中核的委員会として位置づけ、前期末、後期末の総括会議(科目検討、シラバス検討、コマシラバス検討、授業法検討など)において、計画上の可否、実行上の可否判断に関連外部実務家の意見をたえずフィードバックさせる会議体として機能させることとする。議事録などには、新科目開設の必要の有無、シラバス・コマシラバス改善の必要の有無、教授法改善の必要の有無などを科目単位で具体的にアジェンダ集約し、改善の中身が具体的にわかるよう会議を集約することを会議規程としても明文化している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
井手 まゆみ	マンガ家	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
佐野 直樹	WBASE.Ltd.	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
白石 隆保	河原デザイン・アート専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
露口 武志	河原デザイン・アート専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—
空山 竜司	河原デザイン・アート専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年11月19日 17:00～18:15

第2回 令和4年3月15日 17:00～18:15

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業連携の取り組みについての助言。また、学外活動や作品制作についてアドバイス。業界就職率向上のための施策提案、課題解決型、問題解決型の授業スタイルの提案などの意見をカリキュラムに取り入れる。23年度から続いているNHK松山放送局、番組内で使用される映像作品を提供しており、逐次放送局の担当者から意見、アドバイスをいただき、実践学習として連携を続けている。□

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等と連携した実習等は、1)学生が校内における通常の実習等では得ることが難しい実践的、専門的な知識や技術等を習得する場であり、2)さらには学習してきた知識や技術の理解度、習熟度を再確認し、3)企業等の関係者から具体的で実践的な評価を得て、学生の実務能力を多面的に開発する機会とする。また学生能力の習得のみならず、その機会を通じて、学校の実習カリキュラムがより実践的な内容になるよう努めることとする。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 企業と連携することによって、より実践的に漫画制作工程の流れを体験的に学習する		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
メディア企画実践Ⅰ	出版物を制作するための企画書の作成・ワークフローの理解、マーケティング、営業のロープレ等を通して、企画提案できるクリエイターの育成を目指す。	有限会社ストリング
漫画演習Ⅰ～Ⅳ	コマの割り方やキャラクターの見せ方、物語の展開の仕方など漫画を描くうえで基本となる技術の習得を目的とする。	清水桃里(漫画家)
マンガテクニックⅠ～Ⅳ	ペンの使い方やトーンの貼り方など漫画を製作する上で必要とされるテクニックの習得を目的とする。	岡本一広(漫画家)
印刷概論	印刷に必要なトンボやCMYK、CTP版など出版に必要な知識の習得を目指す。	第一印刷株式会社
背景美術	カラーイラストの基本となる空気遠近法や水彩塗、厚塗りなどのデジタルソフトを使った技術の学習	日田慶治(イラストレーター)
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校の教員研修の基本方針は、1)各教員の専攻分野における実務に関する高度な専門知識・技術の修得、2)およびそれらを授業計画(カリキュラム、シラバス、コマシラバス)に落とし込む能力の修得、3)さらにはその研鑽を実際の授業運営に反映させる教育力の修得を目的として、教職員研修規程第2条に定める研修を受講させることとする。同規程第3条に定めるとおり、所属長及び法人本部総務部責任者は、各教員の実務専門性や教育力の組織的で継続的な向上に努めることとする。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ジャンプ+が欲しい新人について	連携企業等: 株式会社集英社
期間:	令和5年5月24日	対象: 学科教員
内容:	採用される人材の能力要素を学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	河原学園新人教員研修	連携企業等: -
期間:	令和3年4月から8月にかけて15回実施	対象: 学園新人教員
内容:	教育理念、コンプライアンス、ICT活用、遠隔授業、専修学校制度、職業実践専門課程概要、職業教育、シラバスとコマシラバス、授業成果評価について	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	編集プロダクションの今について	連携企業等: (株)サイドランチ
期間:	2022年9月28日	対象: 学科教員
内容:	編集プロダクションの現在の業務について学ぶ	
内容:	〇〇〇〇〇	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	河原学園新人教員研修	連携企業等: -
期間:	令和4年4月から8月にかけて15回実施	対象: 学園新人教員
内容:	教育理念、コンプライアンス、ICT活用、遠隔授業、専修学校制度、職業実践専門課程概要、職業教育、シラバスとコマシラバス、授業成果評価について	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検評価の客観性・信頼性や社会的ミッションの取り込みを加速させる取り組みでなければならない。そのことにより、組織的、継続的な学校改善に実質的に寄与する自己点検評価の質的向上を図ることとする。またステークホルダーとしての関係者評価にとどまらず、将来的には、関係者を越えた第三者評価に発展しうる質の高い関係者評価を目指すこととする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的
(2) 学校運営	組織・管理運営
(3) 教育活動	教育
(4) 学修成果	基本指標
(5) 学生支援	就職指導、学生支援
(6) 教育環境	設置基準項目(施設設備等に関する事項)
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	設置基準項目、組織・管理運営(法令遵守)
(10) 社会貢献・地域貢献	学校教育以外の諸活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員会のご意見については議事録を作成・保存しており、ご意見を頂いた内容を基に次年度以降の学校運営の計画を策定している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
村上 忍		令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	保護者
正岡 湧気		令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
正岡 敦	第一印刷株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
白井 隆広	株式会社建築資料研究社 日建学院松山校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
宮内 慎	一般社団法人愛媛県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	業界団体
おちR	漫画家	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
山本 拓哉	未来高等学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://idea.kawahara.ac.jp/>

公表時期: 2021年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

高度な職業教育への研鑽を組織的、継続的に推進するためには、組織的、継続的な企業連携が必須とわれわれは考えている。その連携を有意義なものとするためには、企業にとって、学校の教育人材目標やその現状が体制として見えやすいものになっていなければならない。教育課程編成会議、学校関係者評価会議などの会議規程の透明性や開放性はもとより、自己点検評価の各指標全体が検証可能な透明性や開放性を持つことが、そのためにも必須である。その方針の下、われわれは以下の連携指標をもつこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的、沿革、組織・管理運営、設置基準項目(施設設備等)
(2) 各学科等の教育	基本指標、教育、設置基準項目(学生に関する事項) 設置基準項目(教
(3) 教職員	設置基準項目(教員等に関する事項)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動以外の諸活動
(6) 学生の生活支援	学生の受け入れ
(7) 学生納付金・修学支援	設置基準項目(財務に関する事項)、学生の受け入れ
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価結果公開資料
(10) 国際連携の状況	学校教育以外の諸活動
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://idea.kawahara.ac.jp/>

公表時期: 2021年10月30日

授業科目等の概要

(文化・教養関係専門課程漫画クリエイター科)														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	授業方法			場所			企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	
	○			デッサンⅠ	画力の基礎となるデッサンの基礎について学習する。	1前	60	4	○		○	○		
	○			デッサンⅡ	画力の基礎となるデッサンの応用について学習する。	1後	60	4	○		○	○		
	○			CLIP STUDIO表現技法Ⅰ	漫画・イラストを描くうえで必須ソフトのCLIP STUDIOの基礎技術を習得する。	1前	60	4	○		○	○		
	○			CLIP STUDIO表現技法Ⅱ	漫画・イラストを描くうえで必須ソフトのCLIP STUDIOの応用技術を習得する。	1後	60	4	○		○	○		
	○			Photoshop/Illustrator表現技法	Photoshop/Illustratorの基本的なオペレートから応用までの知識について学習する。	1後	60	4	○		○	○		
	○			色彩表現Ⅰ	デジタルソフトを用いた様々な色彩の表現方法を学習する。	1前	60	4	○		○	○		
	○			色彩表現Ⅱ	デジタルソフトを用いた様々な色彩の応用表現を学習する。	1後	60	4	○		○	○		
	○			構図・画面構成Ⅰ	構図と画面構成に関して巨匠の絵画を参考に学習する。	1前	60	4	○		○	○		
	○			構図・画面構成Ⅱ	構図と画面構成に関して巨匠の絵画を参考に応用表現を学習する。	1後	60	4	○		○	○		
	○			コミック技法Ⅰ	漫画の基本となる6ペーンに関する使い方やテクニックなどについて学習する。	1前	60	2	○		○	○	○	
	○			コミック技法Ⅱ	漫画の基本となる6ペーンに関する使い方やテクニック、背景などの応用表現について学習する。	1後	60	2	○		○	○	○	
	○			シナリオ技法Ⅰ	漫画を描くうえで重要となるシナリオの作り方や見せ方について学習する。	1前	60	2	○		○	○	○	
	○			シナリオ技法Ⅱ	漫画を描くうえで重要となるシナリオの作り方、見せ方の応用表現について学習する。	1後	60	2	○		○	○	○	
	○			漫画演習Ⅰ	漫画を描く上で基本となるネームの書き方やコマ割りなどのルールについて学習する。	1前	60	4	○		○	○	○	
	○			漫画演習Ⅱ	漫画を描く上で基本となるネームの書き方やコマ割りなどのルール、応用表現について学習する。	1後	60	4	○		○	○	○	
	○			色彩理論Ⅰ	色彩に関する知識を身につけ、色彩検定などを中心とした資格の獲得を目指す。	1前	30	4	○		○	○		
	○			デッサンⅢ	画力の基礎となるデッサンによる描写を道具の使い方から表現の方法まで幅広く学習する。	2前	60	4	○		○	○		
	○			デッサンⅣ	画力の基礎となるデッサンによる描写を道具の使い方から表現の方法まで幅広く学習する。	2後	60	4	○		○	○		
	○			コミック技法Ⅲ	漫画原稿を描く上で必要な知識と法則、またそれらを描写する作画技術を学習する。	2前	60	2	○		○	○	○	
	○			コミック技法Ⅳ	漫画原稿を描く上で必要な知識と法則、またそれらを描写する作画技術を学習する。	2後	60	2	○		○	○	○	
	○			シナリオ技法Ⅲ	漫画を描くうえで重要となるシナリオの作り方見せ方について学習する。	2前	60	2	○		○	○	○	
	○			シナリオ技法Ⅳ	漫画を描くうえで重要となるシナリオの作り方見せ方について学習する。	2後	60	2	○		○	○	○	
	○			LINK制作Ⅰ	当校が発刊する漫画「LINK」に関する取材と冊子の原稿制作。グループワークにて漫画形式で制作する時間。	2前	60	4	○		○	○	○	
	○			LINK制作Ⅱ	当校が発刊する漫画「LINK」に関する取材と冊子の原稿制作。グループワークにて漫画形式で制作する時間。	2後	60	4	○		○	○	○	
	○			ビジネス著作権Ⅰ	ビジネスにおける著作権を理解し、著作物の保護や活用できる人材を目指すための学習をする。	2前	30	1	○		○	○		
	○			ビジネス著作権Ⅱ	ビジネスにおける著作権を理解し、著作物の保護や活用できる人材を目指すための学習をする。	2後	30	1	○		○	○		

27	○	UIデザイン	UIデザインを通じて発信元としての基本的な情報などの見せ方について学習する。	2 前	60	4	○	○	○				
28	○	キャラクターデザイン演習Ⅱ	オリジナルのキャラクターをデザインする上での概念や基本的な情報などの見せ方について学習する。	2 後	60	4	○	○	○				
29	○	漫画演習Ⅲ	漫画を描く上で基本となるネームの書き方やコマ割りなどのルール、応用表現について学習する。	2 前	60	4	○	○	○	○			
30	○	漫画演習Ⅳ	漫画を描く上で基本となるネームの書き方やコマ割りなどのルール、応用表現について学習する。	2 後	60	4	○	○	○	○			
31	○	漫画業界論Ⅰ	漫画業界の現状から業界へアプローチする上で必要な知識を学習する。	2 前	60	2	○	○	○	○			
32	○	漫画業界論Ⅱ	漫画業界の現状から業界へアプローチする上で必要な知識を学習する。	2 後	60	2	○	○	○	○			
33	○	質感表現Ⅰ	デジタルソフトを用いた基礎知識とそれを用いた多様な質感の表現方法を学ぶ。	2 前	60	2	○	○	○				
34	○	質感表現Ⅱ	デジタルソフトを用いた基礎知識とそれを用いた多様な質感の表現方法を学ぶ。	2 後	60	2	○	○	○				
35	○	Live2DⅠ	Live2Dの基本的なオペレートから簡単なアニメーション、部品分けなどの操作や概念について学習する。	1 前	60	4	○	○	○				
36	○	Live2DⅡ	Live2Dの基本的なオペレートから簡単なアニメーション、部品分けなどの操作や概念について学習する。	2 後	60	4	○	○	○				
37	○	デジタル漫画演習Ⅰ	デジタルソフトを用いた漫画原稿の作画技術の向上を目指し、表現方法の多様性を学習する。	2 前	60	4	○	○	○				
38	○	デジタル漫画演習Ⅱ	デジタルソフトを用いた漫画原稿の作画技術の向上を目指し、表現方法の多様性を学習する。	2 後	60	4	○	○	○				
合計					39	科目	108 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件	出席率90%以上、卒業基準検定の取得、期末試験合格	1 学年の学期区分	2 期
履修方法	対面授業 (一部遠隔授業)	1 学期の授業期間	15 週